

## 思春期課題の基本的ニーズの把握方法に関する研究 —男子大学生へのインタビュー調査—

研究分担者 松浦 賢長（福岡県立大学看護学部）  
研究協力者 原田 直樹（福岡県立大学看護学部）  
研究協力者 渡邊多恵子（淑徳大学看護栄養学部）  
研究協力者 梶原由紀子（福岡県立大学看護学部）  
研究代表者 永光信一郎（福岡大学医学部）

### 研究要旨

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報 22 項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的としたインタビュー調査を行った。前年度とは異なる大学に所属する男子大学生 3 名を対象とした。

学校から得た知識・情報は詳細な理解には至っていないものがほとんどであった。しかしその中で、妊娠や出産、避妊に関する知識・情報については、学校の指導内容によって大きな差が生じていた。一方で、心の問題、自殺等については当事者性の有無でニーズの高さに差が見られた。自身や家族、友人の経験を介しての課題は知識・情報のニーズが高く、自ら積極的に知識・情報を得ていることが明らかとなった。

しかしながら、自ら積極的に得たその情報のソースはインターネット等によるもので、得られた知識・情報には信憑性の懸念がある。学校教育等を通じた正しい知識と誰もが当事者になりうることを想定した窓口や支援の情報の提供が必要と考える。

### A. 研究目的

成育医療等基本方針の「II-2-(4)学童期及び思春期における保健施策」に記載されている保健施策・思春期課題に関して、現在青年期にある大学生を対象に、インタビュー形式で思春期の“自分”に必要な（当時それらを得た記憶がない）と考える知識・情報等について基本的ニーズを把握する方法を開発することを目的とする。同時に把握されたニーズをもって思春期課題への組織的対応の設計・社会実装に資することを目指す。

### B. 研究方法

B 大学の大学生 3 名を対象にインタビューを行った。対象者はいずれも 20 歳を超えた男子学生であった。インタビューを行った者は同性の研究者である。なお、インタビューはオンラインにて実施した。インタビューする項目については、成育医療等基本方針の「II-2-(4)学童期及び思春期における保健施策」を中心に 22 項目を導き出した。なお、こちらの 22 項目（表 1）を対象者にも開示・共有してインタビューを進めた。

表 1. 試作したインタビュー22 項目

- ・栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報
  - ・やせや肥満に関する知識・情報
  - ・健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報
  - ・アレルギーに関する知識・情報
  - ・月経に関する知識・情報
  - ・妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報
  - ・妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報
  - ・避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報
  - ・人工妊娠中絶に関する知識・情報
  - ・梅毒及びH I V感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報
  - ・がんやがんの予防に関する知識・情報
  - ・性暴力・性被害に関する知識・情報
  - ・性的虐待に関する知識・情報
  - ・心の問題に関する知識・情報
  - ・自殺に関する知識・情報
  - ・ゲーム依存に関する知識・情報
  - ・姿勢や運動器に関する知識・情報
  - ・不登校に関する知識・情報
  - ・発達障害や特性に関する知識・情報
  - ・スポーツと健康に関する知識・情報・タバコやアルコールに関する知識・情報
  - ・大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報
- (倫理面への配慮) 対象者には、研究参加は任意であること、途中で中止できること、研究参加の可否で不利益を被ることはないことを研究協力者が口頭で説明し、了承の上で参加してもらった。性に関する内容を含むこと及び医療機関等に繋ぐべき内容が語られる可能性があることを鑑み、インタビューを行う者は同性の研究者とし、また適切な支援を行

うことを研究者と研究協力者で合意した上で、インタビューに臨んだ。

### C. 研究結果

男子大学生 3 名を対象にしたインタビュー調査結果を下記に項目ごとにまとめた。各項目の知識・情報等に関して、当時のニーズ状況に関しては◎を、現在振り返ってのニーズに関しては○を、さらに各項目の質問・方法に関しては●を付した。

#### 【栄養・食生活や運動等の生活習慣に関する知識・情報】

- ◎学校(家庭科等)で学ぶ程度の知識を得ていた。
- ◎母親が保健関係の専門職者であったため、日常的な家庭教育の中にあった。
- ◎具体的な知識というよりは生活習慣は健康に影響するという大まかな知識はあった。
- 睡眠時間をしっかりとるなど、自分の健康を守ることができたので知識があって良かった。
- 今思うと大切にが必要な知識だと思う。

#### 【やせや肥満に関する知識・情報】

- ◎母親が保健関係の専門職者であったため、日常的な家庭教育の中にあった。
- ◎やせや肥満が健康に与える影響について知っていた。
- ◎友人には体型だけで判断してダイエットをしている者がいたが、自分は標準体重かどうかで判断できた。
- ◎しっかりした知識や情報はなく、自分なりに好ましい外見上の体型で太っている、やせているという判断をしていた。
- 必要な知識だとは思いますが、思春期の子どもは気に留めないのではないかと。どうしても見た目を重視してしまうのではないかと。

**【健全な口腔機能の保持・増進に関する知識・情報】**

- ◎自分が小学生ごろから歯と歯肉の病気があったため、歯科医からの指導を受けていたため、ある程度知っていた。
- ◎小学生の頃の学校の指導で、虫歯予防の歯みがきの方法や歯周病のことを教えてもらった。
- ◎母親や祖母から 8020 運動のことなど、歯と口腔の健康について聞かされていた。
- 子どものころから歯と口腔の健康について教えてもらっていてよかったと思う。

**【アレルギーに関する知識・情報】**

- ◎自分がアレルギー疾患に罹患していたので、自分の病気に関することは詳しく知っていた。
- ◎アレルギー全般について詳しく教えてもらった経験はない。
- 思春期の時期にアレルギーの知識・情報を知っていたら、その時は生かせないがその後の生活に役立ったと思う。
- 思春期の当時はアレルギーの知識を持っていてもあまり役立たないと思うが、自分のアレルギー疾患については知っておく必要はあると思う。

**【月経に関する知識・情報】**

- ◎女子には月経がある、生理痛があるという程度の知識しかなかった。
- ◎保健体育の授業で習う程度の知識しかなかった。
- 思春期の頃に詳しい知識はあるに越したことはないという程度。知っていれば関わり方や配慮ができると思う。

**【妊娠、出産等についての希望を実現するため**

**の知識・情報】**

- ◎妊娠、出産の希望についての知識はなかった。
- ◎授業でも取り上げられた記憶はない。
- 今振り返っても知識が必要と思わない。
- ある程度の基礎的知識があってもいいかと思う程度だった。
- 質問項目の「希望を実現する」という箇所には少し説明が必要と考える。

**【妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識・情報】**

- ◎妊娠の機序は知っていたが保健体育で習う程度ものだった。
- ◎中学生の頃は授業で詳しく習った記憶がない。高校に入ってからかなり詳細に習った。
- 中高生の妊娠の話の時おり耳にするので、しっかりした知識・情報の教育が必要と思う。
- 思春期は性への関心が高まる時期なのでしっかりと授業で教えた方がよい。

**【避妊や予期せぬ妊娠に関する知識・情報】**

- ◎中学校の性に関する指導で少し習った。
- ◎中学生の頃は授業で詳しく習った記憶がない。高校に入って、モデルを使用する等、かなり詳細に習った。
- ◎授業で習った記憶はないが、友達から聞いて何となく知っていた。
- 中高生の妊娠の話の時おり耳にするので、しっかりした知識・情報の教育が必要と思う。特に妊娠したらどうしたらよいか等の情報は知っておいた方がよいと思う。
- 思春期は性への関心が高まる時期なのでしっかりと授業で教えた方がよい。

**【人工妊娠中絶に関する知識・情報】**

- ◎授業で習った記憶はなく、知識も情報もほとんどなかった。
- ◎中学生の頃は授業で詳しく習った記憶がな

- い。高校に入ってかなり詳細に習った。
- 妊娠したら終わりと思っていたので、選択肢を知ることは大切と思う。
- 妊娠しても出産が困難な場合もあるので、手段の知識として必要と思う。
- 学校の授業で取り上げて欲しかった。

**【梅毒及び HIV 感染症を含む性感染症問題に関する知識・情報】**

- ◎大学に入るまでほとんど知らなかった。
- ◎保健体育で習ったが、性行為で感染する疾患があるという程度で、詳しい疾患名や症状までは知らなかった。
- ◎保健体育とともに歴史の授業で梅毒などを取り扱ったことを記憶している。詳しい症状までは知らなかった。
- 予防教育として、しっかりと詳しい内容を授業等で教えるべきと思う。

**【がんやがんの予防に関する知識・情報】**

- ◎いくつかの部位ごとのがんは知っていたが、がん予防については知らなかった。
- ◎生活習慣との関係では喫煙が肺がんのリスクを高めるといった程度の知識しかなかった。
- ◎家庭内でも生活習慣とがんの関係を聞いてはいたが、自分の生活に結びつくことはなかった。
- がんやがんの予防に関する知識・情報は必要だと思う。
- 生活習慣との関連は知識としてしっかりと授業等で教えるべきと思う。

**【性暴力・性被害に関する知識・情報】**

- ◎ニュースでレイプについて聞いたことがあったが、性暴力・性被害についての知識・情報はほぼ持っていなかった。
- ◎性暴力・性被害についての知識・情報はまっ

- たく持っていなかった。
- あまりにも自分から遠い問題で、必要さは感じない。
- 自分が被害に会うかもしれないので、知識や情報を知っておくことは大切と思う。
- 相談する窓口の情報や窓口の存在は知っておくとよいと思う。

**【性的虐待に関する知識・情報】**

- ◎ニュース等で聞いたことがあった。
- ◎虐待というと身体的虐待のイメージが強かった。
- 何が虐待に当たるのかを知ることで、自分が受けている行為が虐待に該当するという判断ができる。知識・情報は必要。
- 被害に会った時に対応できるので知識・情報は知っておいた方がよいと思う。
- 被害から逃れるために、相談する窓口の情報や窓口の存在は知っておくとよいと思う。

**【心の問題に関する知識・情報】**

- ◎精神疾患については知らなかった。
- ◎悩みがあるときはスクールカウンセラーに相談するとよいという情報は持っていた。
- ◎自分がやや不安定な頃があったので、精神疾患について知っていた。授業で習ったり、インターネットで調べたりした。
- 今考えると必要とは思いますが、どこまで理解できるかは疑問である。
- 自分が精神疾患等を罹患した時のためにもしっかりした知識・情報は必要と思う。知らなかったら、自分の弱さのせいなどと自分を責めて追い詰めることがある。
- 「心の問題」からイメージするものが広すぎる。個人の経験で左右される。説明が必要である。

**【自殺に関する知識・情報】**

- ◎自殺者が多いこと、子どもの自殺もあることをニュース等で知っていた。
- ◎自分がやや不安定な頃があったので、自殺についても自分でインターネットで調べたりした。
- 自殺の詳しい知識・情報はいらなと思う。相談窓口やサポートについてのしっかりした情報は必要と思う。

#### 【ゲーム依存に関する知識・情報】

- ◎ゲームがやめられなくなることがあると知っていた。
- ◎知らなかった。
- ◎ゲームをあまりやっていたのでよく知らなかった。
- ◎友達と集まって同じゲームをして遊んでいた。ゲームは友達と一緒に遊ぶツールなので、止めにくい。
- ゲームの長時間使用についての危機感があったので、知識・情報は必要と思う。
- 知識・情報は必要と思うが、おそらく行動は変化しないと思う。

#### 【姿勢や運動器に関する知識・情報】

- ◎姿勢については家庭や学校で言われていた。
- ◎姿勢が肩や視力に与える影響やロコモティブシンドロームのことなど、テレビで見たり母親から聞いたりした記憶がある。
- ◎運動器に関する知識・情報は持っていなかった。
- 知識・情報はあってもいいかなと思う程度。さほど必要性は感じない。

#### 【不登校に関する知識・情報】

- ◎言葉としては知っていたが、詳しくは知らない。事情があって学校に来ることができないという程度のイメージしかなかった。
- ◎友人に不登校の子かいたがさほど気に留め

なかった。

- スクールカウンセラーや保健室で相談できるといった程度の情報しか知らない。
- 相談窓口や支援についての情報は必要と思う。
- 休んでいる生徒に不公平だとか文句を言う同級生がいた。いじめ防止の観点からも知識は必要。

#### 【発達障害や特性に関する知識・情報】

- ◎障害があるというのは知っていたが、特性など詳しい知識・情報は持っていなかった。
- ◎友人に ADHD の子がいたので知っていた。
- 「できない子」というひとくくりの認識があるので、特性の知識は必要と思う。
- 自分は知ることができてよかった。偏見や差別の抑制につながると思う。
- 障害がある子が身近にいないと、知識を伝えられてもイメージできないと思う。

#### 【スポーツと健康に関する知識・情報】

- ◎運動はした方が健康によいという程度の知識はあった。
- ◎思春期の頃はしっかりとスポーツをしていたので、スポーツの必要性は考えていなかった。
- 大人になって以降の健康のために思春期からの運動習慣が大切という知識・情報はあった方がよいと思う。
- スポーツをあまりしない子どもに限定した知識・情報の提供が大切と考える。

#### 【タバコやアルコールに関する知識・情報】

- ◎保健体育で習う程度の知識はあった。
- ◎外部講師が実験などを踏まえた授業をしてくれたので、かなり記憶に残っている。
- ◎祖父が喫煙と飲酒をされていて生活習慣病になったので、健康への害については知ってい

た。

- 思春期はタバコやアルコールに興味を持ち恥じる頃なので、その予防として健康への影響は知っておいた方がよい。
- インパクトの強い授業はその後の予防行動と生活に大きな影響を与えらると思う。

#### 【大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報】

- ◎テレビで見たり、保健体育で習ったりした程度の知識はあった。
- ◎外部講師の授業があって、印象が強かったので、内容を覚えている。
- ◎何度となく外部講師の授業があった。薬物の種類、入手経路、依存性、市販薬のオーバードーズなど、詳しく習っていた。
- 知らないでは済まされない内容であり、しっかりした教育が必要と思う。
- 詳しく習うことができてよかった。特に市販薬のオーバードーズは周囲にいたが、良くないことという認識を持つことができていたので、そのことを学校に報告することができた。自分や友達の乱用防止に役立つと思う。
- 質問項目に、違法ドラッグだけではなく市販薬のオーバードーズの観点も盛り込むべきである。

#### 【その他】

- ◎行政による保健福祉サービスに関する情報をもっと伝えるべきと思う。

#### D. 考察

22 項目それぞれについて、3 名から別々にインタビューをした結果を得た。学校の保健体育の授業や指導の中で学んだり聞いたりして知識・情報を得ていたとするもの、自分や家族、友人の経験を介して知識・情報を得たとするものが散見された。内容の理解度については個人

差が大きいことが示された。

妊娠や出産、避妊に関する知識・情報については、学校の指導体制によって大きな差が生じている。わが国の中学校における性に関する指導は、「妊娠の経過は取り扱わないものとする」とした、いわゆる歯止め規定があり、性交や避妊について学ぶ機会はない。高校においてはこの歯止め規定は存在しないが、取り扱う内容は学校によって差がある。今回の調査でも高校時の教育内容が、知識に差を生じさせたと考える。

前回の A 大学での調査結果と比較すると、A 大学の学生は自分が交際していた恋人の存在や妊娠・出産をした母親の存在が、女性の性や妊娠・出産、避妊や性感染症への関心を大きくさせていたが、B 大学の学生からはそのような経験に基づく関心の高まりといった意見は出されなかったが、学校教育の内容による差が示された。

栄養や体型、運動に関する項目では、今回の調査では全員がある程度スポーツに取り組んでいたことから、健康を目的としたスポーツの必要性についての認識は乏しかった。一方、A 大学では、思春期当時に競技スポーツに取り組んでいた者は体作りに関する栄養や体型等に関する知識・情報を積極的に求めており、当事者性の有無で思春期当時のニーズが大きく異なることが考えられた。しかし B 大学の学生も競技スポーツに取り組んでいた学生がいたが、ニーズの差は見られなかった。当事者性の有無ではなく、取り組んでいる競技の種類、取り組みの度合い、家庭内の栄養等に関する環境によってニーズに差が生じることが考えられる。

アレルギー疾患、心の問題、自殺では当事者性の有無で思春期当時の知識・情報、ニーズが大きく異なっていた。これは A 大学の調査にも共通するものであった。思春期当時にそれぞれの課題を有していた者は思春期当時から積

極的に知識・情報を求めている。とりわけ共通して見られたのは、心の問題、自殺、不登校では、知識よりも相談窓口や支援などの具体的な解決に向けた方法の情報を求めている。

性感染症は、A 大学と同様に中学校での授業での知識・情報の獲得は困難であることがうかがえた。避妊、予期せぬ妊娠、中絶とともにより正確な情報を求めており、発達段階と性に関する関心の拡大に対応してタイムリーに知識・情報の提供が必要と考える。

今回試作した 22 項目については、A 大学と同様に「妊娠、出産等についての希望を実現するための知識・情報」及び「心の問題に関する知識・情報」に関しては、ニーズ把握に関して文言を平易化する必要があることが明らかになった。さらに「大麻や覚醒剤、違法ドラッグ等の薬物に関する知識・情報」に関しては、違法性のある薬物だけではなく、昨今若者の乱用によって注目されている市販薬のオーバードーズについても項目内に明言しておく必要が示唆された。

## E. 結論

成育医療等基本方針から導いた思春期課題に関連する知識・情報 22 項目に関して、そのニーズを把握することと把握方法を検討することを目的として、男子大学生にインタビュー調査を行った。学校から得た知識・情報は詳細な理解には至っていないものがほとんどであり、一方で自身や家族、友人の経験を介しての課題は知識・情報のニーズが高く、自ら積極的

に知識・情報を得ていることが明らかとなった。しかしながら、その情報源はインターネットや友人といったもので、得られた知識・情報への信憑性についての懸念がある。学校教育等を通じた正しい知識と誰もが当事者になりうることを想定した窓口や支援の情報の提供が必要と考える。

## 【参考文献】

- 1) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.
- 2) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年告示），2017.
- 3) 文部科学省：高等学校学校学習指導要領（平成 30 年告示），2018.

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

## G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし